



7月の園だより

令和7年7月1日
目黒区立田道保育園

6月のすもう月間で幼児クラスはすもうを活動に取り入れています。初取り組みでは幼児クラスで見合いました。5歳児クラスが取り組む姿は見てたえがあります。子どもは取り組みたい友達を指名して1対1で取り組みをします。開幕早々の取り組みでは5分以上、互いに譲らず、まわしを持ち勝負がつきません。その真剣な取り組みに3、4歳クラスの子どもたちと保育士も真剣な表情になり「つよい」「どっちも、がんばれ」と声援を送っています。取り組みが終わるとまわりから「2人ともよくがんばった」と声援と沢山の拍手をもらいました。負けた友達はうつむいていましたが納得のいく取り組みだったようで、「次は頑張ろう」と保育士から声を掛けられると大きく頷いていました。負けてなお強しと言葉がありますが、この経験は次は勝ちたいという思いに繋がっていることが感じ取れました。30年以上続いている田道保育園のすもうは体づくりの一環ではありますが体だけではなく、心も育っていることを強く感じました。また次回の2月場所ではどんな心の成長が見られるか楽しみです。

今月も引き続き保育参観や個人面談を行っていきます。お子さんの家庭での様子を伺いながら、保護者の方々と保育園が同じ気持ちで子育てをしていけるように努めていきたいと思ひます。



今月の予定

プール開き
七夕集会 (3・4・5歳)
なつまつり (3・4・5歳) ※中旬 身体計測・避難訓練



～0歳・1歳・2歳クラスのつぶやき・子どもとのやりとり～

「もぐもぐ」

めだか組 (0歳児クラス)

クラスの皆で調理前のかぶを触ったり、見たりしました。「もぐもぐ、美味しい」と保育士が食べる真似をすると、子どもも「もぐもぐ」と口を動かして食べる真似をしていました。子どもたちは日々、色々なことに興味を持ち始めているので、たくさん共感していきたいです。

「ペろ・ペろ・ぱー」

あひる組 (1歳児クラス)

ヘリコプターの音が聞こえてくると「あ」と空を見上げて、嬉しそうに指をさして何か言おうと口をパクパクとしています。保育士が頬を寄せて見守っていると、「ペろ、ペろ、ぱー」と言葉を発していました。保育士はヘリコプターのことだと思い「ヘリコプター飛んでいるね」と答えると、子どもは自分の手でグーとパーを作って重ねてヘリコプターの形を表現していました。子どもたちのつぶやきや思いを汲み取り、一緒に心を通わせていきたいです。



「またあそぼうね」

らっこ組 (2歳児クラス)

クラスに仲間入りしたアゲハチョウの幼虫を触ったり、図鑑と照らし合わせて「これかな」と観察していました。幼虫が羽化して、蝶になっているのを見つけると「このえほんといっしょだね」と話したり「ぱたぱたってとんでいるね」と羽ばたくような仕草をして蝶になった嬉しさを伝えていました。虫かごから逃がした時は皆で「バイバイ」「またあそぼうね」と蝶に手を振っていました。生き物を育てていく中で、発見や生長を見守り、子どもたちと一緒に共感していきたいです。

6月場所開幕 ～すもうの取り組み～

田道保育園では平成2年から異年齢保育の活動の一つとしてすもうを始めました。6月と2月は天候などで戸外に出られることが少ない時期でもあるため、すもう月間としています。



「負けないぞ！」 ペンギン部屋（3歳児クラス）

ホールですもうを取るの初めてのペンギン部屋は子どもたち2、3人対保育士で毎日取り組みを行ってきました。まわしを作るのも最初の頃は「うしろがはいらない」「やって」と言っていました。日を追うごとに「できたよ」「ほらみて」と自分で出来たまわしを誇らしげに保育士に見せています。「名前を呼ばれるのはまだか」「早くやりたい」という表情で呼び名を呼ばれるのを心待ちにし、呼ばれると嬉しそうに土俵に上がります。名前を呼ばれ喜びに満ちた表情から一転、保育士と目を合わせると睨みを利かせ立ち上がり、足腰に力を入れて踏ん張り押し勝つと「やったあ」と飛び上がり、勝って嬉しいという気持ちを表現していました。22人の力士たちの“勝って嬉しい”“楽しいからもっとやりたい”という気持ちが溢れ、元気いっぱいに取り組んだペンギン部屋の6月場所でした。

「おすもうなんて大嫌い」 いるか部屋（4歳児クラス）

6月場所が開催されると「おすもう頑張るぞ！」と張り切っていました。すもう座りも板について迫力のある表情をしています。「〇〇山」と名前を呼ばれるとドキドキしながらも友達との勝負に力いっぱい取り組んでいます。必ず勝ち負けがつく中で負けが続いてしまったAさんは「ずっと負けている」「もうすもうなんて大嫌い」とホールの隅で泣いていました。保育士が声を掛けて「頑張っていたよ」と思いに寄り添うと気持ちを立て直していました。後日、また負けが続いてしまうと「また負けた」「もう嫌だ」と同じようにホールの隅で泣いていました。でも友達がすもうを取っていると、保育士が声を掛けなくても自分で気持ちを立て直して戻ってきてすもう座りをして応援しています。負けて悔しくてすもうなんて大嫌いから、悔しいけれど次は頑張るという気持ちへと変化していました。すもうを取る強さだけでなく、気持ちの面も大きく育った6月場所でした。



「〇〇さんお願いします」くじら部屋（5歳児クラス）

くじら部屋では保育士があらかじめ考えた取り組み表とは別で、子どもたちにも誰と取り組みをしたいか、指名を聞いて取り組んでいます。毎日やる中で「昨日勝てなかったから〇〇ちゃんとやりたい!」「どうしても勝ちたいから今日も〇〇くん」など、それぞれが色々な思いを持って土俵に上がっています。「見合って、見合って」の行司の声に、真剣に顔を見合わせる子どもたち。見ている友達も応援に力が入っています。粘り強い取り組みのあとには、一緒にハイタッチをして勝利を喜んだり、惜しくも負けてしまった友達には「惜しかったね」「でも今のすごくかっこよかったよ!」「次一緒に頑張ろう」など励まし合ったり「今の〇〇くんの僕もやってみる」と友達の取り組みでいいなと思ったところを真似してやってみようとする姿も見られました。体のぶつかり合いだけでなく、心もぶつかり合った千秋楽となりました。

